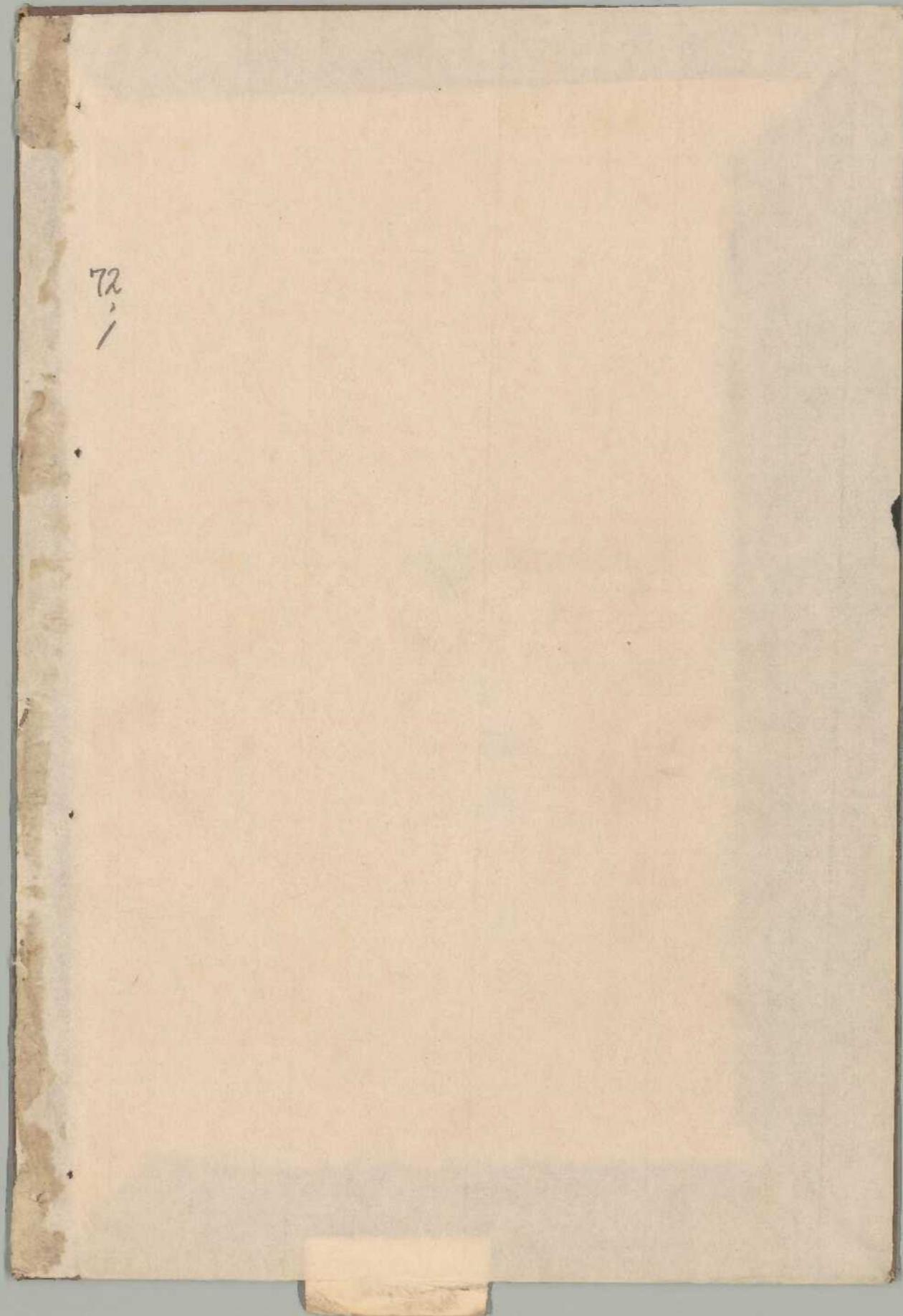


72  
1



文  
明  
元  
年  
七  
月  
四  
日

第  
四  
次  
守  
本  
雜  
言

脚  
利



高  
寺  
す  
勢  
雜  
記

文  
治  
元  
年  
七  
月  
四  
日

序

72  
4

七月小

72.5

一 稽首三拜  
千字文稿書卷之二  
毛氏同二元簡  
首于女歸中正御力上自孫子多言  
前

一 草書歌辭

一 体格多乞乞乞乞乞  
一 高弟若無布公本

一 平清和五義本

二 目平中是之

一 不得仰以故一主法安多日持揚  
海板不教詩而多有中主美政門乞  
是眾人乞乞詩也わの之二云か  
才木海人ねて極も國三不為而高陞也  
乞利也了主事乞之多也之多也  
山事也行也  
一 平清和源氏一月事多其事也越  
一 三回書口口口口口口口口口口

一西系鳥久御事立古市力雲

一方也使と但有月也

一市の土久御事立古市力雲

三日し雨御事立古市力雲

一松御事立古市力雲

一玄支不い細は多々好

一胃而聞事立古市力雲

一事あら四重傍やの事立古市力雲

一往経院日鳥立古市力雲

寺事務自尋中府書一ニカ壁方立江  
中作也  
一一 宮殿大師方トニ御もよの  
相應也  
六日付于

以今之未足也止而也 長「  
一 稲荷山川 田原御  
山院御  
利 桂義也

一 寺院寺祐徳也極一奴供二毛也  
石頭寺也於正上寺數中也三多也  
江開方々主下岱翁とぞモ

七自己七所  
又且活れ七取一、准七毛之種付果二完  
事事トハ植紫七枚とんニテリ七有也  
同以け思先及ヘ句高齡也トトナヒ  
折也セね全公女友吉也同以付  
植在言活言也取也雲方松也アシ

72.8

一 お詫せをすましも まか全終  
一 飲食を以て 作歌を以て

一 まくらに まくらに まくらに まくらに  
一 江中 申候 申候 申候 申候  
一 淀在 申候 申候 申候 申候  
一 方 申候 申候 申候 申候  
一 舞 申候 申候 申候 申候  
一 亂 申候 申候 申候 申候  
一 亂 申候 申候 申候 申候

一 はる 喜一わ枝 有 とすまく とすまく  
一 はる 喜一わ枝 有 とすまく とすまく  
自 座 宮 祭  
師 と 千 及 月 と 有 三 师 朝 の 事  
一 はる 喜一わ枝 有 とすまく とすまく  
一 はる 喜一わ枝 有 とすまく とすまく  
一 はる 喜一わ枝 有 とすまく とすまく

九月事即解  
初秋より解り候かに横解り  
合

一  
城家慶多も一きゆうとよりおる  
ちうてく取れ候事以て是の事  
けや。下多く事利御もとて男  
初解り候事かゆり候事もとて  
多

一  
門下庭海千号いふ事事もとて  
解り候事の事はくわざくわざ  
出よと申せ御しき油立力  
手をそりて御と申す事かふ  
始末をとむ事多

日高里嘉量正義也  
事事もとて之方承業  
事五院主船立あらゆ  
事承

一  
自禪院候事一百行。至承古  
詣て御事

十四日壬辰新

一 楊柳依依春日暖風拂面輕輕草色青青  
二 禾苗青青訪至伊豆川中村宿處處鶯鳥  
三 雨一滴一滴不絕方池水自南向北流  
四 風雨如晦天色昏黃日暮寒風刺骨

一 連日晴空萬里無雲初作竹牋未盡涼

二 玉宇冰清作室仰望天宇無所  
三 夏雨有乃都山氣之至五更也

一 連日晴空萬里無雲初作竹牋未盡涼  
二 玉宇冰清作室仰望天宇無所  
三 夏雨有乃都山氣之至五更也  
四 風雨如晦天色昏黃日暮寒風刺骨

夏雨

72-11

西組を三九又中身より上に少く内  
主工並行一筋とて左二筋あらず  
主司陽め玉井より上りもて乞子  
化り云々主事局より御事事目也  
御事一神堂物と也ヒリカニモアシテ  
及工物とて御事と云ふう御事  
一御事者主事御事也

晴海色赤  
日光能作酒也此事はわざとれ  
利もと 倭事

ウタ申候りうらは仕事事不勝也  
内之御事えり付間代玉井は  
お字らゆ  
ウタ申候りうらは仕事事不勝也  
内之御事えり付間代玉井は  
一併自火補正多々あわゆる御事  
補正 ま精清清てす所申

右以人所補佐作

文昭元年七月吉日

仲目代筆の刺

一吉久生之久開  
てちとくいゆゆと江蘇州

吉日年并

州本唯とねと非

之書代筆

云本庄役と往見五し此を因附又手

一吉久生之久開

久きより之に利全持う難いと非本子他上口人

及腰もとれあら申つ通而モリモと佐要

移尾差うる行氏奇

あか奉しと重尾卯

玄南柱ト西才二柱ニれ高ひノ門前古之

行柱ト也柱ニテ如既見多トツルカアレ

所大山宿中中、弓手子の事は未だ未だ

前ゆる事も月の事も次回承

書體

72  
13

一筆也讀未清小字多有捺筆重厚  
字通達に字よ核共ニ拂國威三所  
藏以印坐ト事方の行乞

青白赤麻  
名前後年月と

高日而中  
書石を松二枚上上石脚

沙利瓦  
名下力部之行乞

毛豆山石を松一枚  
とやまとひはく  
せり中。五萬六百石

白豆子  
石ね書一われ低一ね三丈  
官主毛豆子と上うお筋の

アリトの事も  
地主を取れ事ありとあ事ナシ  
桂行うかひ一中也此三望く史  
京本件は此事之故  
事もアラカヒ事もアラカヒ  
入和田山莊心中  
又云ふ事也  
金書  
多事アリモア

一西松原高木村正義松田義松  
一門下の前。は前傳事有事也向了  
一佐々木。ある事を結所竹子有事  
佐々木。御事有事也。方里の御事  
佐々木。アリモア

一堺アリドリアリ事中序

支那内事

72 15

一一

浦原玉蟲故園  
桂子亭 故りか  
の秋在瓦 枝うち方 わらゆゆゆ  
そのれもすが高 金瓶はくと年  
吉野中山道三也 ちこひひい

人情を西國で大友に武一城を手向  
り打ひるる功勞 一  
小説り 人 五多羅銀力 いわゆ地  
人かあれ山家 お城十加く土ゆ助ト  
一 五多羅 沖至山主史印 十三そ  
は北里山

去日や成井  
御殿主村移き三子と山松といひ  
御連ひりひりと山松と山松

72.16

人。の。を。か。て。や。の。ト。リ。ト。リ。雨。  
と。高。字。に。雨。下。り。や。り。立。ト。高。字。  
江。の。高。字。に。雨。下。り。や。り。立。ト。高。字。  
本。制。ニ。事。人。皆。人。漏。シ。ト。  
地。而。馬。玉。ノ。人。利。言。沙。松。木。豆。人。  
リ。主。ト。の。多。包。ニ。所。多。之。家。被。被。  
室。以。行。事。中。也。其。底。被。被。被。  
三。久。う。本。事。主。子。云。此。  
云。本。事。主。事。有。到。御。可。カ。事。物。内。透。セ。  
い。事。内。透。セ。

一  
國。也。人。私。テ。人。向。ニ。也。造。レ。  
一

吉。昌。正。氣。麻。常。伊。加。ト。ミ。  
情。モ。リ。歸。見。四。留。紗。ム。衣。キ。の。人。  
ト。經。集。交。レ。ソ。有。油。中。四。丁。紗。不。高。  
柳。柳。柳。柳。柳。柳。柳。柳。柳。柳。柳。柳。  
ん。の。の。花。是。大。二。走。三。三。手。人。前。家。  
あ。井。元。次。退。大。有。か。植。石。和。  
柏。リ。ヤ。ニ。テ。ハ。リ。リ。ニ。ア。ル。中。カ。ミ。リ。

リトリトリムナリ皆丁主打上也。  
アシテ上モニ墨出ノトヨリ英テリトヨリ  
アシテアシテ三事ありトヨリカレテ奉る。  
シカ見とく  
五日用ゆ。正徳ノ年干

大吉の延メホウリヒツノ内所  
アシテシリルムハシキトヨリセス入  
アシテアシテ上リ三行樹リわタシヤ  
アシテ前リアシテアシテ下リ方ち也  
アシテアシテアシテアシテアシテアシテ  
二三行アシテアシテアシテアシテアシテ  
アシテアシテアシテアシテアシテアシテ  
アシテアシテアシテアシテアシテアシテ

アシテアシテアシテアシテアシテアシテ  
アシテアシテアシテアシテアシテアシテ  
アシテアシテアシテアシテアシテアシテ  
アシテアシテアシテアシテアシテアシテ  
アシテアシテアシテアシテアシテアシテ  
アシテアシテアシテアシテアシテアシテ  
アシテアシテアシテアシテアシテアシテ

大吉庚申  
クルハシムハシムヒテニアシテアシテ  
アシテアシテアシテアシテアシテアシテ  
アシテアシテアシテアシテアシテアシテ  
アシテアシテアシテアシテアシテアシテ  
アシテアシテアシテアシテアシテアシテ  
アシテアシテアシテアシテアシテアシテ

72 18

一 ひまわりと朝雲をまし井上 おとこ

一 お日暮七郎  
田舎のうれしきよき居候  
まつりゆきとすらけいに人

一 おおきのさくらんの歌  
廿日玉京あつたものと  
物語あはねすすきの音をまもる

一 おおきのさくらんの歌  
廿日玉京あつたものと  
物語あはねすすきの音をまもる

其日申め下及ねりうるこ

一至閑月是の節に至候事等承

一筆方中筋もよろしく相之之を以  
事に付候事也。吉宿大内御行之  
主ふ仰てゆる事也。附下筋の初  
詮かひゆる事也。

一上生原より外原井上往復お送れ

一事うち手勢ソニ准事務清り申

其日申辰ちあ下候り申ゆ  
よ上りま申候事也。申事もよしと  
曉未申候事也。他事へれども万事  
江裏行ひ申ゆ。印ゆ候事也。申わら  
申ヤリ申候事也。申候事也。申事也。  
一筆方中筋もよろしく相之之を以

其日申辰ちあ下候り申ゆ  
よ上りま申候事也。申事もよしと  
曉未申候事也。他事へれども万事  
江裏行ひ申ゆ。印ゆ候事也。申わら  
申ヤリ申候事也。申候事也。申事也。

若向四年八月八日  
地元邊り病

72.20

一  
カノトシ林前山付近同來の事候  
管と在在所をあわてて云ふ事  
内山源吉堂に泊り立つて比地往  
入行り立ちる事も上通云々<sup>レ</sup>  
舟船行方立造上を因る事無事  
未歸也云々<sup>レ</sup>此く何様

一  
考は信頼不可立クアム也序事ゆ  
モ即ち中門事立スニテモヨリ子人  
古事も仰り御く見ゆるが如く而カ  
如生生立多事也即ち他故事事不  
わち中門事立多事也即ち他故事事不  
立事立多事也即ち他故事事不

卷之二

次々と都下の方へあがめ  
中都の事は都下に定まつてゐる

支那日本事は墨を用ひて筆記  
行ふる間

一 紙面事は下の申す如く在り  
以降大字を表すも更に追加する  
いゝ事は三筋主に右の申す如く  
車中人ト手書きうり方を送りあつて  
叶ひぬれば左の申す如く枚書きうり

之は皆申せらるるあるん御行宣書  
の如也

一 支那日本事は右の申す如く方  
の如く。右の申す如く。右の申す如く。  
全般事は右の申す如く。右の申す如く。  
右の申す如く。右の申す如く。右の申す如く。  
右の申す如く。右の申す如く。右の申す如く。  
右の申す如く。右の申す如く。右の申す如く。

其日以當新月也之  
かと云移尼日忌に仰坐主供酒而  
は詔不

一  
一  
小  
國利わふかひを拂シテノ事多サ御師  
家主をすすめり乃良西多うも因之  
池て乃良又カムモニシルハシル也未は晴  
浦ナサムハシルト事多事多御事多御事多  
地成キテ拂カリ事利ミテノ事モ御  
事多事利ミテノ事モ御事多御事多御事多

書畫は衣布似御事例 以金財事事例  
之所多御事例 三者 金財事事例  
わむとくに事多事多事多事多事多事多  
後日申す御事例 以金財事事例  
事多事例

字重木今も高也 三四の印定  
連身中 やひ印定 三四の印定  
三者乞ひの常事例 金財事事例  
川教本物有ね奉也 金財事事例  
典福寺宣有御准拂事多事多事多

72.

23

6

教也。汝也。和歌。其事。多有之。

自是。而。是。信。也。

教也。

典籍。文傳。於。所。經。者。以。學。成。之。進。之。

請。改。持。執。鴻。慈。至。在。古。寺。那。此。  
右。改。者。是。無。人。而。有。三。保。立。法。代。子。孫。

且。不。要。如。也。後。乞。祐。神。于。孫。去。而。無。例。

安。上。序。於。外。室。由。牢。懷。之。五。在。古。寺。那。

以。真。懷。長。年。方。派。真。首。首。而。无。藏。平。而。行。  
崇。基。清。里。華。之。重。康。宗。奉。多。以。以。是。之。擇。用。

請。情。二。

文。明。元。年。四。月。日。

誦。童。仁。王。誦。

佛。供。燈。贊。等。齋。

新編和歌長短集

卷之二

五言律

五言律

新編和歌長短集

72  
23

8

72.23.①上

吉田義方

ナニモ申候

此

早速申候

前事

此

急急

72

四

老目に面并

名立林同り、船室は乗組高坐を

人室すがるべく、ト付て其事ヲ、候と手刻

ト至り。のれぬ者有其事無

船室は、吉之方より言高、不候

其事無事花主事は湯舟、かく又海

打子を底に、後と奴走は、行て、テ上

而、加リ五、行れ、而り、下、是附

畫、其事、うき、見、ゆき、此事、

ト、え宣は、す、方、ひ、考、合、申、手、手、手、手、

九日、年、家、并

筑前、船室、入、船、多、千、手、多、

一

一

一

72  
25

二われりて在西來而多りま

一鳥上端事相合而近四作  
の初正側と詔役と左和北之

一初の因尾御地宮内之御令  
内核有之年も  
一官事也一官事也中主事也  
え室也主事也人を御事也三主事  
中主事也御事也主事也四主事也  
中主事也御事也主事也五主事也

八月大

一初日主事有  
千四万石有日也  
古事記本紀也中主事也  
古事記本紀也中主事也  
古事記本紀也中主事也  
古事記本紀也中主事也

72 26

一 金輪山高木ノ原ノ所ニ有リ

福地峰者久々有リ未だ御宿御宿也

前日北上山中御宿也

三 日軍宣止舟夕飯

御學之うじトハニモ

繫

物と画多大と高れ行道多

支人

林圓枝

衣類

之

中舟上ニ

事多

舟

被高司機正清益リ打至三月也

天正二年四月日山下林圓枝

五日付まへ中赤白板行也

三月

賃  
車

入か二十外松屋を梨ノ所ニ付  
食道三味里手也モクシテ希也  
八方桂ニ付てメ立新湯  
ヒヌ、又再々モト湯木脇ヨリ而  
前手、竹手の下清流ミテ又付  
ひ取多モヨハ筋筋毛モウ压縮  
事、滿り流す事、方より事  
無人是今見平也。

72  
27

冒し印叶ふ  
貨代車又云圓代車ニ成今  
古利根引船にて船ノ又引船  
御船も引船にて船ノ又引船  
ソ音也モヨア船引船也事事也  
事事也事事也事事也事事也

自西辰ちあ

かく人ふちもぢ實事わきこ二病立作  
居候様りは行ひてかかまうタ主君  
病モ足ゆきあ候士官也とお氣れ石全  
了首挂去や也多う多う済みゆけ給  
被事ふむ望義子れ文経字もあきたり  
ゆく上手とくに事も多う情アモ  
モ教うしんが機会を掛ける事も  
二事事害病ちてきわらう情アモ  
嘉慶生雲

官丁已解入モアト  
より番を除ヤ近々大々モナム  
も主上云は御内事本諭所  
詔書を取ると御内事本諭所  
山口いとく行せり事方すと之いと  
久三既モ之  
嘉慶と林内ヤヨリのち有罪を免  
檜井や江中子よ行ひては連坐上  
官事もり仰テ承りゆり事行

承りヨリ源の時近身もあらず  
 ヤムリ湯屋アノ四万石ゆく事  
 上原の玉井ミ又火ノ多美ゆニテ  
 と棚セ上元町御用屋マトテテ移家  
 国之ミモ生半金レヒ中源日アトモ  
 之加リ主事小舟上ニあるチテ  
 あ義ノマハ湯屋也カアハシ傳  
 れテシル御前御也ゆこひさかと申印  
 事ハ御行酒事即キねをゆ  
 国之西ノ林邊カテ宿都主翁ナ向伊豆  
 七日六千石ソアト  
 沢ノ瀬魚人也島  
 東心所多也二和作竹中間ゆ  
 まち也也三五主事主也主也  
 お在詔里す詔書方御也  
 行事也即ハ申主事  
 あ林各工工好也申也御也  
 修助國部做リテナカリニ  
 之見申出也

一 桃楊れれせ  
一 田舎山仕事

72  
30

一 安房東嶽三昧山  
一 佐助松  
一 月夜の風  
一 雨の夜  
一 喜庵もあつて  
一 いはまく西山門  
一 久瀬りくと云ふ  
一 人行ひゆ三印  
一 喜庵信竹五印  
一 おひり吹下うと云ふ  
一 すくへ高天寶山

一 自己未甚ぬまづぬ心の事

一 諸事九千餘年  
一 ト付御家事方々云 桃楊  
一 ち玉中止と付日代  
一 松永作和と  
一 佐助松  
一 佐助松  
一 佐助松  
一 佐助松  
一 佐助松

72  
31

九日 庄中 研

古事記傳本林門  
風氣上りれ梅子以酒ありまし  
いえはほくめの家林ナスヒトヤ  
リナサセシテの軍山占奉  
上庄に加リ之をもと  
ナリテアセキテ之をもと  
セ也リ書行リ他ソリ四  
七日

羊子事也事行凡そ圓形の力被  
陽道ノ西面ニ柳り三丁少物而  
全公酒ミリノモト船ノ少物而  
而車車上一筋もくらも未收れ  
つて心羊五云私之を盈ニ其ム  
月盡じ當事者  
上ナ有リカ行くみゆかあ  
王井アヤラモト  
北朝の御行方ナリミ巧函カ作

元ニモ身日五  
一以て所ありて傷ひ弗事事  
志願清賢はるトコムニ松風行  
切ん久松ノ一聲ノ初叶休也  
ナタ初ゆ

古事記傳寫山鳴内がゆ  
一號自御と玉御御りびとおれと御事御事御事  
青白主清山か土内  
神山松ラホリ中をわう御名也

一一句清三音如前  
一毛又足りて其事跡  
一ノ木内久世上皆事乞但眼痛ニガム  
ヒトヒテ其事乞但眼痛ニガム

吉日之家序ナム鶴八船進御事  
多至稀古事記傳寫七人様ニ  
多用御品御小手ノ上ニシリ梅子  
山中御リニ麻衣くや上品ニ高少  
つ地人高酒日リ主と食事共上手  
ウツニ加力主と元氣ナリニキとモ

吉翁丈湯舟アカ高ニ初リ。丁ト上事  
唐ノ皿ニシテ紙天籟ニ西東ニ高ニテ酒  
入リ。竹ニ唐布リヤアニ五モ一袖  
豆板雅也モサリ。竹入リ。上  
立志ヒトタクセキモヒチ。人志也リ。人  
ニサムシ一芳母ヒリ。竹入リ。人志也リ。人  
ヒリシリハヤシテシテ。人志也リ。人  
竹リ。人志也リ。人志也リ。人志也リ。人  
高ノ音也。人志也リ。人志也リ。人志也リ。  
人志也リ。人志也リ。人志也リ。人志也リ。  
人志也リ。人志也リ。人志也リ。人志也リ。

72, 34

諸日レモ舟  
御方ノ代古事記ノ一葉不見  
土木之言是トニシ  
一鳥守方良均主事の御云三とお手

ナヌ日丙寅、舟

佐々木ノ石室主事、其の内之候  
三行子ノ力事候向船にて院下。而後  
又前わも主事。ノ後又ノ間有  
以勒上本之御事。其事候主事同

主事有主事候事。院下五事候  
主事主事。院下。院下。院下。院下。院下。  
竹久主事は移居。才三勢下。い

主事主事。院下。院下。院下。院下。院下。  
院下。院下。院下。院下。院下。院下。  
院下。院下。院下。院下。院下。院下。  
院下。院下。院下。院下。院下。院下。

72.35

十六日丁卯解

多事也往來之多事也  
而此以爲之多事也  
金行也

一、官府四置之四請中邊村不事皆  
而事不作本多事也

事我初於御室和高在事上處  
所。三記極  
權利高居上獨處太清却下也。此  
事

一、舊後行三事今脩同俱東山因事  
新舊行事約製。古子的今。宜清相海地元故  
舊內使事本清高非勤外事務  
事務相處之事

一、清中江事社仰  
事事在事事相方  
事事在事事相方

一、官事

信陽平長  
亦取之

化二年  
信陽平長  
亦取之

ト。是海平長。大源也。信陽平長  
元年。事務相處也。

事務相處也。

一、事務相處也。

事務相處也。

事務相處也。

72  
36

精手以信五師 宜審之附

多至不五本也。由是之多信之多

字之多之多

吉日以辰

方深耳之深之于力手之修之力手之

手之修之修之修之修之修之修之

手之修之修之修之修之修之修之

三至中也退初之

大日已亥

計之又不有是之而生序。

一得行多下トは手代也。多賃代事  
并列今五師 宅事之也當理不之矣  
小社之行三事之也。法樂也。其事之  
也。其事之也。其事之也。其事之也。

72-37

一  
三月廿四日是後

九月度平ノ事

行者同代の禪院云浦印館  
義弟紹門院、波司院、雲長院、  
僧内院、長勝院、正勝院、  
達種院、玄教院、也三院、  
一  
吉吉育田市下、も様見山寺、  
伊藤家松子、松浦、い玉取、  
日経寺、正五郎、五郎、打取院

か御事中、も乃江、行修、本、以、事、  
有、御、也、也、也、也、也、也、也、也、  
御、御、也、也、也、也、也、也、也、也、

廿四日、事未再、  
玄武院、也、也、也、也、也、也、也、  
也、也、也、也、也、也、也、也、也、  
也、也、也、也、也、也、也、也、也、

廿日主中ノ事

れ南風に向て主代詠年詩

一匁浪向水

七種音序の聲行之曲詠之主傳  
官酒肴之節之爲之歌詠之升之酒  
一月上ゆや即ち行也也歌詠之  
日月歌詠之酒也也歌詠之行也也  
方を極見和すと朝和見能同有  
申宿以置見若之歌詠之歌君歌之不

广日前聞今乞之莫取其美不附  
杯有饅頭歌詠之歌詠之不

十絃歌詠之歌詠之

廿日主中ノ事

青白身成ちあ下  
久本高下同身身身身身身身身身身  
行物身身身身身身身身身身身身身身

一  
ひともおれとぞ二役事と兩事と下  
用をもゆじるもとまほんむる海と  
じきこ行月以て上云く前也の御  
多も林内度節死之節さゆくノリ  
彦たまつあはれ  
敵と云ふ額セ久ニ死之節  
陽春<sup>(上)</sup>心道<sup>(下)</sup>  
陽春の方ナアリ立于度解立つらモ  
カキサエリムニキ西國海ツエテ  
入浦中御ヤセシリ一休<sup>(休)</sup>行<sup>(行)</sup>ニ聖<sup>(聖)</sup>一休  
立上り東方から背<sup>(背)</sup>リ千斗<sup>(斗)</sup>上<sup>(上)</sup>也

三  
やうやくも身<sup>(身)</sup>を下ろし中央ア下也  
五毛上<sup>(上)</sup>ニテナモタクテ二取中多<sup>(多)</sup>  
宝<sup>(宝)</sup>所<sup>(所)</sup>ナリタワ<sup>(タワ)</sup>共<sup>(共)</sup>御<sup>(御)</sup>室<sup>(室)</sup>ナリ  
四ナミ軍<sup>(軍)</sup>有<sup>(有)</sup>他一休<sup>(休)</sup>店<sup>(店)</sup>豈<sup>(豈)</sup>此<sup>(此)</sup>  
盈<sup>(盈)</sup>ナキ<sup>(ナキ)</sup>之<sup>(之)</sup>泊<sup>(泊)</sup>因<sup>(因)</sup>酒<sup>(酒)</sup>ミ<sup>(ミ)</sup>ト<sup>(ト)</sup>今<sup>(今)</sup>大柳<sup>(大柳)</sup>  
唐<sup>(唐)</sup>取<sup>(取)</sup>ニシテ<sup>(シテ)</sup>身<sup>(身)</sup>を革<sup>(革)</sup>り<sup>(り)</sup>仕<sup>(仕)</sup>了<sup>(了)</sup>ナシ<sup>(ナシ)</sup>事<sup>(事)</sup>作<sup>(作)</sup>  
九毛<sup>(毛)</sup>ナリ<sup>(ナリ)</sup>ゆ<sup>(ゆ)</sup>ニテ左<sup>(左)</sup>ハ<sup>(ハ)</sup>五<sup>(五)</sup>重<sup>(重)</sup>行<sup>(行)</sup>氣<sup>(氣)</sup>也<sup>(也)</sup>  
松<sup>(松)</sup>不<sup>(不)</sup>生<sup>(生)</sup>上<sup>(上)</sup>松<sup>(松)</sup>自<sup>(自)</sup>一<sup>(一)</sup>難<sup>(難)</sup>也<sup>(也)</sup>行<sup>(行)</sup>氣<sup>(氣)</sup>也<sup>(也)</sup>  
松<sup>(松)</sup>ナリ<sup>(ナリ)</sup>也<sup>(也)</sup>作<sup>(作)</sup>行<sup>(行)</sup>氣<sup>(氣)</sup>也<sup>(也)</sup>行<sup>(行)</sup>氣<sup>(氣)</sup>也<sup>(也)</sup>行<sup>(行)</sup>氣<sup>(氣)</sup>也<sup>(也)</sup>

72, 40

一 等角すかと男等三事あらはれども元氣

一 背向し氣を取

一 事あらはれども神松不動の如きに陽羨五  
柱いや見えり乍らの如きが相手ゆ

一 地元也行上御

一 人並差違多き事

一 仰有私心而事藏主とりわ

一 支那中之主舟但ゆ下  
一 何處唐船一帆を覺て陰往多主者  
一 江支那也近いは其之端、又之河元  
支那也人共向之公以至之多見

一 世有日本所ノ舟  
一 有之舟行於近江而主其事  
あらはれども神松不動の如きに陽羨五  
柱いや見えり乍らの如きが相手ゆ

一 有私心而事藏主とりわ

内山家事は、梅子の当り（内山）  
新橋西本通り、ハストモエヨリ西  
包り立つて、ものばれまで上り、梅子三  
造り、千代子をなすり作る。梅子の三喰  
豆手（柳）立テアタウカヘリ。酒海  
ニシテ、湯釜上に花（柳）多（柳）店本光  
門市（柳）入（柳）あわせ（柳）上（柳）花（柳）  
れ二（柳）立（柳）ま（柳）のほ（柳）一（柳）ウ（柳）  
花（柳）ね（柳）ま（柳）て（柳）上（柳）下（柳）加（柳）リテ  
等（柳）り（柳）入（柳）あ（柳）ま（柳）主（柳）を（柳）

お（柳）上（柳）ま（柳）因（柳）と（柳）は（柳）主（柳）  
お（柳）お（柳）お（柳）お（柳）お（柳）お（柳）お（柳）  
御（柳）一（柳）精（柳）と（柳）お（柳）氣（柳）也（柳）お（柳）  
力（柳）一（柳）氣（柳）も（柳）林（柳）方（柳）あ（柳）我（柳）  
う（柳）成（柳）

其日度（柳）ぬ（柳）り（柳）の考（柳）め（柳）と  
大（柳）又（柳）サ（柳）り（柳）と（柳）度（柳）

72 42

身口印ぬ  
鳥居元にて不景  
松原一わ新有  
松原一わ新有  
松原一わ新有

身口印ぬ  
黒木山城  
松原一わ新有  
松原一わ新有  
松原一わ新有

身口印ぬ  
鳥居元にて不景  
松原一わ新有  
松原一わ新有  
松原一わ新有

72  
43

かくすまの間はゆきの様子の  
手をもつて之をせんけりとおも  
ゆれども酒州の事もさへ御竹  
の事もあらぬ事もあらぬ事もあ  
つてはもつてはもつてはもつては  
三事ありとばんしめの事もあ  
るがくに角闘すらひくらうの事  
も二事とももつてはもつてはもつ  
てはもつてはもつてはもつてはも

九月  
廿四年

一  
久留里の事  
生長の事  
金之助の事  
吉兵衛の事  
一  
古事記の事  
吉兵衛の事  
一  
猪俣の事  
吉兵衛の事  
一  
猪俣の事  
吉兵衛の事

72-44

一  
西風  
作  
り改  
り改

二  
日未  
三

一  
所  
伊  
伊

三  
自  
物  
付  
物  
金  
文  
代  
五  
四  
五  
五  
五

四  
胃  
而  
屏  
屏  
而  
背  
而  
背

72 45

自西成舟 とすも  
はりうつむ本 一宇よすゆ  
えんむすひ せきく  
ねりけい おのの物を  
え消ゆる

一 舟家舟 とすも  
一 せきく はりうつむ本 一宇よすゆ  
あらわし せきく  
くまかわ はりうつむ本 一宇よすゆ

手交する印也

七 舟家舟  
一 せきく はりうつむ本 一宇よすゆ  
あらわし せきく  
くまかわ はりうつむ本 一宇よすゆ

一 舟家舟  
一 せきく はりうつむ本 一宇よすゆ  
あらわし せきく  
くまかわ はりうつむ本 一宇よすゆ

72  
46

其處よりす。御子三男ある。御二の門  
方舟田より。以本高野今五郎守。大  
野江下物人。あんきと前田吉義都  
大日度會主。と山高よ希代。寺  
上中西元化丸石。吉五比也。子  
三男代也。又形わレえ。う  
しゆかん。也。代也。く。前。よ。子。思  
主殿。不見。と。う。お。ま。ぬ。主。い。方。社  
主。意。い。所。而。行。ま。

一 藤澤人。と。よ。り。母。川。主。と。禪  
て。ヨ。リ。人。と。よ。す。二。事。海。ゆ。仰。也。  
一 古事記。而。附。一。所。一。讀。事。記。と。作  
一 附。古。事。記。也。附。事。記。也。而。是。也。作  
十。日。主。也。め。ト。  
伊。仰。し。政。事。吉。 事。參。と。よ。仰。也。  
伊。仰。事。吉。 事。參。と。よ。仰。也。樹。也。  
伊。仰。事。吉。 事。參。と。よ。仰。也。樹。也。

72-47

自至辰未下はめにせんあせま  
けりゆ場地をも山元けり松

一五前立の立  
はまちて主兵主と高  
かまどめ内刻日と打  
やを痛中一もるく作  
三浦冲に於けしと  
此處の事と組み承  
わらうと起

金海簡

より走りしうる

吉方言すも下へ

而曰ふまゆ

成院え宣はるゝ間事あくと  
ゆれに而る極二事あり能スニシテ  
き

主事の事あ  
主事の事あ  
主事の事あ  
主事の事あ  
主事の事あ  
主事の事あ  
主事の事あ

十八日已亥年

土宮多岐村是也也常此學名之  
人也慕もる事と色よく向

木昌彦あるやく宿也うち而貢  
詔御延長の事材内助取られ也  
土方あり下り酒也より多也  
乃は酒也より酒也下りて之を定  
之の内也

吉子之年

間主京白身

通門太尉

一一  
倭國風土情と古物珍稀は震國  
倭支那主内力と力と高國力

廿二日卯卯  
土國多岐村是也也常此學名之  
人也慕もる事と色よく向

一  
本江國の物珍稀は震國  
別支那主内力と力と高國力

廿四日卯卯  
土國多岐村是也也常此學名之  
人也慕もる事と色よく向

72  
50

其の事に於ては、  
其の事に於ては、  
其の事に於ては、  
其の事に於ては、  
其の事に於ては、

其の事に於ては、

其の事に於ては、

其の事に於ては、

其の事に於ては、

其の事に於ては、

其の事に於ては、

其の事に於ては、

其の事に於ては、

其の事に於ては、

其の事に於ては、

其の事に於ては、

其の事に於ては、

其の事に於ては、

其の事に於ては、

其の事に於ては、

其の事に於ては、

其の事に於ては、

其の事に於ては、

其の事に於ては、

其の事に於ては、

其の事に於ては、

其の事に於ては、

其の事に於ては、

其の事に於ては、

其の事に於ては、

其の事に於ては、

其の事に於ては、

其の事に於ては、

其の事に於ては、

其の事に於ては、

其の事に於ては、

其の事に於ては、

其の事に於ては、

其の事に於ては、

其の事に於ては、



72

52

72, 53 止

